

議会だより

令和5年5月20日発行 / No.153



the most beautiful
villages in japan

原村
長野県

2023年
3月定例会
から

令和5年度一般会計予算 2
審議から 6
一般質問 8
住民の声を聞く 14



「全集中！」 原小学校4年 奥田 わかなさん



原村議会の情報は
ホームページからも
ご覧いただけます



「マチイロ」
アプリからも
ご覧いただけます

令和5年度一般会計予算

47億3,800万円

若者や女性に選ばれる村

歳入は、個人所得税増、法人所得税減等を見込み、昨年度比1・1%増の7億6480万、地方交付税は、昨年度比1・1%増の16億6600万円となった。

基金繰入れは、1億8607万円増の6億4061万円、村債は、2億6155万円増の3億3474万円となった。村債の主な事業は、小中学校エアコン設置、防災備蓄拠点整備、地域福祉センター泡消火設備改修事業などを予定する。

歳出は、再エネの最大限導入のための計画づくり、子ども子育て支援センター太陽光発電設備設置などを行いエネルギーの自給に向けた取組みが始まる。また、結婚から出産育児までを一貫して支援する体制では、原村保育園の一時保育に加え、村内私立保育園で生後57日からの一時保育を実施する。結婚から出産・子育て応援は、相談支援と経済的支援を同時に行う。

長年懸念されてきた災害時の緊急輸送道路である国道と村内を繋ぐ中央高速道の側道整備など、安心な暮らしと環境、若者に選ばれるまちづくりに取り組む予算編成としている。

コロナ禍での新しい生活様式、新しい働き方で、テレワークやオンラインの環境は急速に整った。一方、住民サービスの向上や人手不足解消による業務効率化につながっているのか、注視する必要がある。若者や女性に選ばれるまちづくりについては、親の子育て環境の整備にとどまっておらず、子育てや教育にかかる親の経済的な課題、ひとり一人が豊かに暮らせるための施策には、まだまだ議論が必要である。今定例会では、村長提出議案17件、同意案件1件を、同意及び可決した。





地域の脱炭素の実現に向けた再エネ 最大限導入のための計画づくり

1,000万円

地域再エネ導入の取組みは、2030年度46%削減、2050年脱炭素社会の実現を目標とし、地域に適した再エネ導入のための計画を策定する。

- Q** 補助金が採択されなかった場合は。
- A** 1000万円の3/4の補助金。採択されなかった場合、村費を投入するかどうかは理事者の考えによる。担当課だけでは判断できない。
- Q** スケジュールにある地域協議会2回の開催とは。
- A** 地域協議会の意見を計画に反映していく。実現可能な計画としたい。

地球温暖化対策実行計画策定スケジュール（予定）

		R5												R6	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
補助金交付申請、委託業務契約															
委託業務	1 温室効果ガス排出、吸収量の現況推計、将来推計														
	2 再エネポテンシャル調査省エネ、環境整備等の施策洗い出し施策検討														
	3 将来推計を踏まえた将来ビジョン、脱炭素シナリオの作成														
	4 1～3を踏まえた省エネ、再エネ、環境整備等の各施策の目標設定														
	5 計画素案とりまとめ														
補助金実績報告書提出															
庁内推進委員会															
地域協議会															
区域施策編策定															

子ども子育て支援センター 太陽光発電設備設置

2,329万円

屋根に太陽光パネル370Wのモジュールを87枚(30kw相当)を乗せ、蓄電池15kwhを設置する。晴天時には電力の自立を図るとともに、日没から閉館までの電力を供給し、光熱水費の節約と地球温暖化防止に貢献する。



ギカイ の シテン

村では、ゼロカーボンに向け、村内住宅のエネルギー自立化を促進するため、再生可能エネルギーの導入促進・省エネルギーの推進を具体策とし、公共施設から順次実施している。この施策が起爆剤となり、太陽光発電システムが村内住宅にも広く波及していくことを期待する。

エネルギーを考え、取り組む。



防災倉庫「原村防災資機材等備蓄倉庫」 7,667万円

村内の役場や小学校体育館など数カ所に保管されている防災用品を、集中管理し災害時の対応や物資の供給を素早くするもの。また、防災倉庫(平屋造194.4㎡)の設置場所については、旧諏訪バス回転場と旧文化財整理室の利便性や工事費の比較をコンサルタントに委託し、検討した結果、旧文化財整理室に決定した。



ギカイのシテン

旧文化財整理室の建物解体処理に係る補助金との関係と北側道路の冬場凍結防止を考えれば現在地が適地であるという判断は妥当であるが、村道側に行ける約3.2mの段差は、安全のための転落防止策は必要である。また、出入り口が狭いため、発災時にスムーズに備蓄品の搬出ができる動線の確保も必要である。

空家有効活用 促進事業 1,200万円

村では移住・定住の促進及び地域の活性化を図るため、移住・定住希望者などが村内の空家を「購入」あるいは「リフォーム」を行う場合の一部費用を補助する。令和4年度は、応募者が多く、当初500万円の予算は、早期に予算額に達し、700万円の追加補正した経緯がある。

補助内容 空家購入費の1/2(限度額100万円)、リフォーム費の1/2(限度額50万円)など。

ギカイのシテン

空家対策と補助事業は環境係が担当し、移住・定住については田舎暮らし推進係の担当だ。

空き家を有効活用するには、プロジェクトチームもしくは協議会の設置など、部局横断的な連携をする必要がある。

合葬式墓地 建設事業 2,000万円



写真はイメージ

村では村営墓地2カ所の管理運営をしているが、少子高齢化、核家族化、高齢者の単身世帯増加等の変化により、死後に不安を持つ方が増えている現状を踏まえ、合葬式墓地の建設の検討を進めてきた。令和5年度建設完了、令和6年度供養開始予定。

【管理方法】

個別埋蔵 180体 15年間納骨棚へ保管し、その後納骨室へ共同埋蔵となる。
共同埋蔵 320体 当初から納骨室へ共同埋蔵となる。

使用料は近隣市町村を参考に考える。

安心して住み続けられる村に。



地域おこし協力隊

地域おこし協力隊を令和4年度の4名から大幅に増員し、10名とする予定。それぞれが当たる任務は ①結婚活動支援 ②ふるさと寄付金事業推進 ③美しい村づくり推進 ④移住・定住推進 ⑤ホームページ情報発信 ⑥地域福祉推進 ⑦滞在型観光推進 ⑧星降る里ブランド化推進 ⑨スポーツ振興 ⑩美術館の企画・情報発信と多岐にわたる。

地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊は、都市部から地方に移住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、地方への定住・定着を図る取り組み。任期は概ね1年以上3年以内で、一人あたり報償・活動に要する経費480万円、任期後の起業・事業継承に要する経費100万円などが国から交付される。

ギカイのシテン

これまでの地域おこし協力隊員の任期満了後の定着率は決して高くない。原村に興味を持ち着任した協力隊員が任期満了後もこの地に残り、長く活躍してもらえるように、任期中の働き方や任期後の定着に向けた準備・相談などを村には検討を願いたい。

子育てフォローアップ事業

1,921万円



子ども子育て支援センターを拠点として、会計年度任用職員12名体制で、子育て世代の相談・支援を行う。

(職員内訳)

- 相談員 3名
- 子育てサロン 6名(月曜日～土曜日10時～16時開設、1日2名体制)
- 放課後支援員 3名(下校～夕方5時まで)

結婚新生活支援補助金

300万円

新婚夫婦の婚姻に伴う新生活の経済的負担を軽減し、地域における少子化対策の推進に資することを目的に、婚姻に伴う新生活に係る費用の一部を補助する。

- 補助対象経費 住居費・リフォーム費用・引越費用
- 対象世帯
 - 夫婦ともに婚姻日における年齢が29歳以下……………補助上限額 50万円
 - 夫婦ともに婚姻日における年齢が30～39歳……………補助上限額 30万円

ギカイのシテン

新婚世帯を支援することで妊娠・出産・子育てへとつながり、少子化・移住定住対策推進に期待できる。

若い世代に希望と笑顔を。

賛否が分かれた議案等

3月定例会
審議結果



○は賛成、×は反対、△は趣旨採択又は一部採択に賛成、▽は退席、－は欠席、議長は可否同数時のみ裁決する。

審議結果	半田裕	中村浩平	宮坂早苗	佐宗利江	森山岩光	松下浩史	平出敏廣	北原貴穂	宮坂紀博	百瀬嘉徳		
《村長提出》												
第1回定例会												
議案第3号	原村子ども・子育て支援センターの設置及び管理に関する条例	可決	○	×	○	○	○	○	○	×	○	
議案第4号	原村公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	
議案第9号	原村道路線の廃止及び認定	可決	○	×	○	○	○	○	○	×	○	
議案第21号	令和4年度原村国民健康保険直営診療施設勘定特別会計補正予算（第4号）	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	
《議員提出》												
発議第1号	原村議会委員会条例の一部改正する条例 《提出者 原村議会議員 百瀬 嘉徳》	可決	○	×	○	○	○	－	○	×	▽	○

国保直営診療施設勘定特別会計補正

消費税申告納税義務を怠っていたため、5年間にさかのぼって納税する。

税務署で確認した額に不備がないか、税理士の最終確認を経て、申告書作成、納税を行う。

消費税未申告分の補正額	631万円
（内訳）税理士謝礼	33万円
加算税・延滞税	51万円
消費税	547万円

Q 判明した経過は。

A インボイス制度の対応を検討していた時に、課税売上を超えることが判明。税務署に相談し、5年間にさかのぼり申告し、納税することとなった。

Q 再発防止のための方策は。

A 今まで通り特別会計で行い、課税・非課税の仕分けを行っていく。公営企業会計制度を行っている診療所は全国的に少数であり、保健福祉課長が責任を持って行っていく。

反対討論

- ・五味村政になり、様々な不祥事が発生している。住民から申告を受ける村長が申告もせず、納税もしていない。自身の責任の取り方を明確にしてから条例案を出すべき。

賛成討論

- ・議会、監査も通っている。それぞれが責任をとるべき。納めることができる内に納めることが大切。
- ・一番ご迷惑をおかけしたのは、住民の皆さん。村長と議会の2元代表制において、チェック機能が働かなかった議会の責任も大きい。速やかに納税し、再発防止に取り組むこと、村長・議会は、処分について考える必要がある。

原村公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例の一部改正

これまで、指定管理者候補の選定委員会は「副村長・教育長・各課等の長」の行政関係者だけで構成されていた。今後の候補者の選定にあたり、知識・経験のある外部の者の意見を反映させるため、条例に審査会の規定を新たに設ける改正。

審査会は委員7名以内で組織し、「村の職員・知識経験者・その他村長が必要と認める者」のうちから村長が委嘱または任命する。

Q 審査会を組織する単位は。

A 指定管理の単位で審査会を作る。

Q 公の施設を管理する課等において処理するとはどういうことか。

A これまで文化園と美術館を商工観光課が一括で手続を進めた。正式には文化園は商工観光課、美術館は教育委員会で所管するので、それぞれが候補者選定を行うべきと考える。

Q 委員の一般公募は行うか。

A 想定していない。

反対討論

- ・審査会の委員に住民公募が入っていないのは考えられない。

賛成討論

- ・選定にあたって重要なのは職員にない専門的な視点。住民の意見は選定時でなく違った形で集めることができる。

原村子ども・子育て支援センターの設置及び管理に関する条例について

上程された条例案では、会議室や相談室、テレワークルームなどの使用料について18歳以下から使用料を徴収することの可否について争点となり、子どもから使用料を徴収することの可否について争点となった。長時間議論した結果、子どもからは使用料を徴収しないとする事件訂正が提出され、可決した。

■事件訂正前

(使用料の額及び納入)

第6条 支援センターの使用料は別表のとおりとし、使用者は、使用前までに納入しなければならない。

■事件訂正後 (赤字は訂正箇所)

(使用料の額及び納入)

第6条 支援センターの使用料は別表のとおりとし、使用者は、使用前までに納入しなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する者は除くものとする。

- (1) 国及び地方公共団体
 - (2) 村内子ども・子育て支援団体
 - (3) 子ども(出生の日から18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある者)
- 別表 備考2の削除

●別表 (訂正前)

区分	1時間	1日の上限	備考
会議室及び相談室	500円	3,500円	
テレワークルーム	100円	700円	
備考	1 使用のための準備、原状回復及び清掃の時間は、使用時に含むものとする。 2 18歳以下又は学性は2分の1を乗じて得た額とする。		

反対討論

・住民からの料金徴収は子ども支援・子育て支援の理念に反する。
 ・児童福祉施設ではないのに、子ども子育て団体がタダになる。就労支援をする施設であれば、減免をするべき。

賛成討論

・自立する運営も求められている中で、使用料を徴収する者、しない者があるのは妥当である。
 ・村内外に開所を楽しむにしている人がいる。

一部事務組合予算総額・原村負担金内訳

単位：千円

会計別	予算総額	原村負担金
諏訪広域連合 (6市町村) ※令和5年度原村に新消防車配備		
一般会計	353,457	12,474
特別会計	救護施設八ヶ岳寮	0
	介護保険	20,601,196
	諏訪広域消防	2,602,853
	諏訪地域ふるさと振興基金事業	11,570
諏訪南行政事務組合 (原村・茅野市・富士見町・諏訪市)		
一般会計	177,473	7,220
特別会計	795,274	95,362
南諏衛生施設組合 (原村・富士見町)		
一般会計	167,003	53,283
諏訪中央病院組合 (原村・茅野市・諏訪市)		
病院事業	11,900,161	72,679
老人保健施設	453,601	171
看護専門学校	167,166	8,895
介護老人福祉施設	475,375	—
諏訪広域公立大学事務組合 (6市町村)		
一般会計	1,913	88

市町村単独では実施が難しいものや、共同で実施したほうが効率的な事業や施設運営を行う組織です。原村に係るものは左表の5組合があります。原村議会からも各組合の議会に議員として参画し、また、村では運営に必要な費用を負担しています。

令和5年度各事務組合予算

3月 定例会

一般質問

一般質問とは、議員が村政全般にわたり、執行機関である村に対して、事務の執行状況及び将来への方針などについて疑問点をただし、報告、説明を求めることです。
3月定例会では9人の議員が登壇し、村政課題への提言や質問を行いました。ここではその主な内容（質問と回答の要旨）を掲載します。

<p>北原 貴穂 議員 きたはら たかほ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学生からの提案 2. 障害者雇用の推進 3. 住民からの要望事項 	<p>中村 浩平 議員 なかむら こうへい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消防団員の待遇改善を 2. 会計年度任用職員の給与等の見直しを 3. 道路行政、安全対策が不十分であるが 4. 議会軽視の改善を 	<p>森山 岩光 議員 もりやま いわみつ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 村の広聴機能は、十分發揮されているか 2. 職員の働き方改革の進捗と、今後の方策 3. コロナ対策 	<p>百瀬 嘉徳 議員 ももせ かとく</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公共施設の消防水利 2. 防災関連施設や公共施設に太陽光発電設備の設置を（ゼロカーボン施策と経費削減も兼ねる。） 	<p>平出 敏廣 議員 ひらいで としひろ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県が進める三振川上流の砂防堰堤施設の進捗とレッドゾーン・イエローゾーンの解消は 2. 後期基本計画5-1-1住民参画による村づくり区・自治会間境界の線引き、入区に関する説明はなされているか 3. オンデマンド交通（のらびあ） 4. 物価高騰による助成の考えは 5. 結婚・出産祝い金についての考え
<p>宮坂 紀博 議員 みやさかのりひろ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 村道の認定 2. 建築物と敷地の関係 3. 改正建築物省エネ法、改正建築基準法 4. 子ども子育て支援センター 5. 都市計画 	<p>半田 裕 議員 はんだ ひろし</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歳入を確保するための取り組みを 2. 地域おこし協力隊が活躍できる環境づくりを 	<p>佐宗 利江 議員 さそう りえ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 村道の整備 2. 入区 3. 部活動の地域移行 4. 長野県次期総合5か年計画案について村の対応は 	<p>宮坂 早苗 議員 みやさか さなえ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 男女共同参画基本計画の取組みは進んでいると考えるか 2. スポーツ推進計画を策定しては 3. 農業後継者の施設改修補助を 4. ゼロカーボンの達成に向けて、車のEV化、充電設備を進める考えは 5. アウトドアの普及による野外たき火の条例整備 	<p>一般質問は事前に質問内容を通告することになっています。 質問時間は1人につき質問答弁を含め60分以内で完了することとされています。 一問一答方式が採用されており、1項目につき2回まで再質問ができます。 一般質問全文の閲覧および検索は村ホームページから行えます。</p> <div data-bbox="172 1928 280 2033" data-label="Image"> </div> <p>議会会議録 検索</p>

村のPR

問 中学生の意見どう思う？

答 非常に効果的だと思う

問 中学生議会に代わる試みとして、学校で意見交換会を行った。

原村PR講座では、セロリン号をキャラクタ

ター等を使ったラッピング車両にして、原村

のPRに役立ててはどうかとの意見があった。

この意見への感想と実現の可能性は。

村長 高速バスにラッピングをして原村をPRしようと検討したことがありますが、200万円ほどかかるため断念した。車両は平日は原村、土日は別の場所です。



北原 貴穂 議員

歩道除雪

問 住民の負担軽減策を

答 高齢化も考えなくては

建設水道課長 各地区に対し、除雪機購入の補助制度がある。村からお願していることでもあり、高齢化が進み、これまでのように除雪ができなくなることは考えられる。官民協働のあり方も含め、今後について考えたい。

問 降雪の際、歩道の除雪が負担になっているとの住民からの意見があった。村と住民が一緒になって、負担軽減策を考える時期に来ているのでは。

商工観光課長 着眼点がいい。確認したところ、車両にラッピングは可能とのこと。今後検討したい。

子ども課長 中学生議会をやってきて良かったと思う。どうせ聞いてもらえないと思われないように、中学生の意見を真剣に聞いて原村の発展に生かしていきたい。

消防

問 消防団員の待遇改善を

答 負担軽減を図っていく

問 団員の報酬を現金で直接本人に支払わないのは違法である。また何人もの団員から、全く報酬をもらっていないと聞いている。実態はどうなっているか。

消防室長 副分団長以上は直接本人の口座に、他は一括して分団の口座に振り込んでいる。

その先について署では把握していない。令和5年度から直接支払うよう整備を進めている。

問 操法大会の練習が団員及びその家族に負担となっている。また



中村 浩平 議員

道路

問 止まれの多くが消えている

答 今後は復旧を行っていく

建設水道課長 止まれの標示は大変大切なもの。今後は順次復旧を行っていく。

問 道路区画線の復旧がとて遅かった。春から始められたはずだ。

消防室長 議員指摘のとおり、大会の練習が負担となっているのは

事実。調査研究を進め軽減を図りたい。また大会についても競技志向になっている。基本操作訓練、総合的な想定訓練を取り入れて、団員の負担軽減を図っていききたい。

住民の声

問 新たな広聴制度の創設を

答 主題として取組む

問 村では、地域の皆さまの声を聴く手段として「むらづくりふれあいトーク」「村長への手紙」により実施されているが、政策への反映度はどの位か。

問 コロナ感染により地域の分断、連帯意識の希薄化が加速している。今こそ、村が積極的に各地区に向向く仮称「三三集会所」を創設し、地域の皆さんの思い・要望など聴きとり、政

策に繋げて行く時では。村長 2期目にはいった時、ぜひ実施したいと思ったがコロナ禍で機会が取れなかった。今後、大きなテーマとして捉え、取り組む。

村長 回答不要や諾名を除けばすべて回答し、担当課と共有している。昨年度の同トークは教育福祉関係など18件、村長への手紙は生活環境安全関係43件があった。例えば、新年度予算で実施する小中学校へのエアコン設置など、さまざまな政策に反映されている。

コロナ



森山 岩光 議員

問 4月からのマスク脱着は

答 個人の判断に委ねる

問 文科省は、4月からは学校教育活動ではマスクの着用を求めない事を決めた。村内の生徒保護者からは賛否の声があり混乱している。早急に村の指針を发出し、周知すべきでは。教育長 着用を求めないのを基本とするが、着用を希望する児童生徒には適切に配慮するとともに、換気や手洗いなどは行っていく。決して強要せず、個人の主体的な選択を尊重し、基本的に着用は個人の判断に委ねる。

太陽光

問 公共施設に太陽光発電を

答 国県の補助を得たい

問 村の防災倉庫等の施設には、停電時にも使用できる太陽光発電設備を設置したらどうか。

総務課長 単独設置の費用と売電収入とを検討した。現時点では財政的に負担が大きすぎる。問 消防団屯所の建直し計画があるので太陽光設備の設置を。

消防室長 国のゼロカーボン施策や非常電源確保の面では進めたい。屯所は小規模なため、電気の利用、蓄電、売電等を費用対効果で検討したい。

消防水利



百瀬 嘉徳 議員

問 公共施設の消防水利は

答 消防基準は満たしている

問 小学校体育館北の防火貯水池の子供転落防止対策は十分か。

教育長 小学校では貯水池に近づかない、周囲で遊ばないように周知徹底している。定期的に1.7mのフェンスの確認と排水管理をしている。

問 池に消防ポンプの吸管投入が難しいので地下式にしたらどうか。

消防室長 地下式にすれば安全確保されるが池はなくても、水利の基準は満たされている。

行政

問 弓振川上流砂防堰堤施設

答 令和9年完成を見込む

問 令和3年3月議会で県にひきつづき確認はしていくとの答弁を受けているが、確認された現在の進捗状況は。

村長 県の建設事務所管内で、岡谷市、茅野市で大災害が起き、日程的な遅れは出ている。

して、令和9年度の完成を見込んでのスケジュールで進む。

問 新規住所登録の際、各区等に情報提供はどのように行っているか。入区に関する説明は。

総務課長 転入手続きの際、自治組織、区・自治会への情報提供についての同意と加入のお願いの文書を配布している。境界について今後再度確認を進める。

公共交通



平出 敏廣 議員

問 地域の意見を組み入れて

答 富士見高原病院へは検討中

問 「のらぎあ」について、各地区説明会で出された住民意見の富士見高原病院等への要望を組み入れるべきでは。

村長 実証実験については3月までを少し延長を検討している。

駅云々については他の事業者との関係性があり難しい。富士見高原病院については検討の俎上に乗っている。報告定例議会中に5月までの実証実験延長と、高原病院への利用可能になると報告があった。

建築行政

問 省工ネ基準改正の課題は

答 省略制度の範囲が減る

問 都市計画区域外も、令和7年度から木造平屋建て二百㎡以外は確認申請・構造・省工ネ計算が必要になるが。

建設水道課長 窓口業務や建築主の提出物の負担が増える。周知や理解が必要になる。

・基本設計は完了しており、実質的な設計は実施設計者に委託した。（国交省HPより）建築確認などの建築行政

は、住宅・建築物の質を確保する上で重要な役割を果たしている。一

般に建築物を建築しようとする場合、建築主は建築工事に着手する前に、その計画が建築基準関係規定に適合するものであることについて建築主事等の確認を受けなければならない。

危機管理



宮坂 紀博 議員

問 袋小路の住宅地は

答 把握している

問 道路基準を満たさない袋小路のような場所が村内に点在している。住宅火災が起きれば、現場は非常に混乱するが対応は。

消防室長 諏訪広域消防の各出動体を統括する指揮隊の指示により情報収集を行い、消火・避難活動等に支障はない。

防火対象物は、諏訪広域消防で把握している。

財 政

問 早急にDMOの設立を

答 村内循環も含め検討

問 観光推進組織検討委員会が設置されて2年が経とうとしている。検討はどのような結論になったのか。早急に次の段階である、設立準備会を設置し検討していくべきでは。

問 初めから大きな事業体になる必要はない。小規模でもDMOが必要と思うメンバーで話し、そこから広げていけば良いのでは。

割は村内にDMOが自発的に生まれる状態にすること。そのために目指す村の姿や観光方針を明確に示しDMO形成に前向きな事業者の要望に応えていく。

商工観光課長 国からの支援の受けやすさ、近隣市町村との連携のしやすさ、ニーズに合わせた観光地整備がしやすいことから、検討委員会では必要との結論に至った。しかし、核となる事業者や人材が村内にいないという課題がある。

財 政



半田 裕 議員

問 GCFの活用を

答 条件が合えば活用したい

問 厳しい財政の中で、GCF(ガバメントクラウドファンディング)を積極的に活用してもらいたい。特に住民や事業者から公募を受けて共に検討するようことは可能か。

総務課長 目標金額を達成しなければ、一般財源で行うため、村の事業計画に沿っているかも含め判断が必要となる。しかし、村のためになることであれば積極的に話を聞いていきたいのでぜひ提案をしてもらいたい。

道 路

問 国道20号への新ルートは

答 金沢木舟ののぞみ大橋へ

問 阿久の信号から国道20号への代替ルート整備の進捗状況。20号のぞみ大橋から諏訪方面は渋滞が頻発しているがどう考えるか。

整備計画がある。ダイレクトに国道に接続できる道路が出来るので利便性はかなり上がるのでは。選択肢が増えるので用途により使い分けして欲しい。県の5か年計画へ組み

込まれた。遺跡の調査などもあり、その中で着工するのではないかな。今後は現状の村道と付け替えし、新たな県道として整備される方向性。

村長 私がこの職に就いてずっと取り組んできた命題。現状、緊急車両が入るルートがなく、県へ働きかけてやっとここまでこぎつけた。

建設水道課長 阿久信号下から中央道阿久遺跡周辺をくぐりのぞみ大橋へ出る。20号諏訪方面の渋滞箇所は拡幅

入 区



佐宗 利江 議員

問 区境への入区について

答 分かりやすく検討する

問 移住者は入区によって生活が大きく変わり、村としてもできれば区に入って欲しいはず。書類や窓口対応など、その為の対応が明確に出来ているか。住民利益の為に確立を。

総務課長 中身を精査し、分かりやすい書類を検討したい。現状では窓口がいくつかに分かれている。たらい回しにならないよう、今後の中心は田舎暮らし推進係ではないかと思うので検討していく。



宮坂 早苗 議員

建設水道課長 環境省
作成の自治体排出量カルテでは、村内で排出される二酸化炭素の半分が運輸部門の自動車、これを、電気自動車、水素自動車に転換していくことは有効。現在、村が県の太陽光発電設備に上乘せ補助をしている部分に、V2H、電気自動車と家をつなぎ、互いに供給し合う仕組みの補助を検討し、計画に盛込む。

農業振興

問 古い施設の改修補助を

答 使用期間延長方策を考える

問 アウトドアの普及により野外たき火を見かけるようになった。たき火のための条例制定やガイドラインを整備し、事業者、地権者の責務を明確にしては。

村長 火の怖さは十分知っている。最後の後始末をすることが基本的なルール。先人から受け継いだ財産を守っていく責務もある。条例整備などについて、考えていく。

問 農業施設の新設補助は、JA補助に上乘せであるが、古い施設の改修補助はない。また、改修時に直売施設や作業場、トイレなどの働く環境の整備を考える若者もいる。施設改修、働く環境整備の補助新設を考えては。

農林課長 環境整備は非常に大切。農業後継者への補助は1回限りで、50歳未満、20万円の補助交付をしている。様々な用途で活用できるため、この中で考えていただきたい。

環境

問 EV化でCO₂削減を

答 V2Hを計画に盛込む

問 各家庭1台は車を持つている。二酸化炭素削減に、車のEV化は有効。補助新設を。

南信州の地に学ぶ

総務産業常任委員会
視察報告

公共施設整備と観光への取組及び行政の関りの調査を目的に、令和5年2月8日に阿智村、豊丘村を視察してきました。

■南信州豊丘マルシェ



県内46番目の道の駅として平成30年4月にオープン。村の農業の6次産業化計画による観光農業化を推し進めるため、地元産農産物の直売所をメインにレストラン、焼き立てパン、アイスクリームテイクアウトコーナー等を併設。村指定緊急避難場所および避難所としての機能も備える。

■天空の楽園 ナイトツアー

標高800mの山麓駅からゴンドラに乗って15分で1,400mの山頂駅へ。合図とともに施設照明はすべて消灯され、環境省が実施する全国星空継続観察で「星が最も輝いて見える場所」第1位に選ばれた星空が眼前に広がる。昼神温泉宿泊とのセット販売など、観光資源が有効に使われていた。



意見交換会

女性団体相互の連携を深め、団体活動の振興及び女性の地位向上に資することを目的に様々な活動を行っています。

〈女性団体連絡協議会〉

昨年は、中止となりました議員さんとの意見交換会が行われました。私は、始めて参加いたしましたが、子ども達の環境、地域の問題からコロナ禍、物価高騰等さまざまな課題の「窓口になります」と回答をいただきました。これからも議員さんとの意見交換会を続けていけるよう、私たち団体も活動していきたいと思っております。お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。



いきいき原村農業塾
塾長 小古間 寿子さん

女性団体連絡協議会と議会との意見交換会は、昨年中止となり2年ぶりの開催でした。

今年は、議員さんの活動内容などお聞きし、そのあと女団連メンバーから質問が出て、活発な話し合いができと思います。日ごろ、考えていることや疑問など、議員さんそれぞれが持っている情報や、感じてることなど聞かせていただいて有意義な時間となりました。私たちの生活が豊かなものになるように、一緒に考え行動していくことが大事だと思いました。

食生活環境部会
小倉 佳美さん



女団連では毎年2月に村会議員さんの皆さんとの懇親会を開き、議員さんの皆さんと意見交換という貴重なお時間をいただいています。普段あまり身近に感じることの少ない議員さんのお仕事を説明していただいたり、私たちが日ごろ気になっていることに答えていただいたり、とても充実した場となっています。

女団連としての活動にアドバイスをいただくこともあり、議員さんは私たち住民の代表であり原村をよりよくしたいと活動している私たちと同じ地域人なのだなと感じます。これからも大切にしたい懇談会です。

原村消費者の会
会長 田口 夕季さん



住民の 声 を 聞 く

みんなのひろば

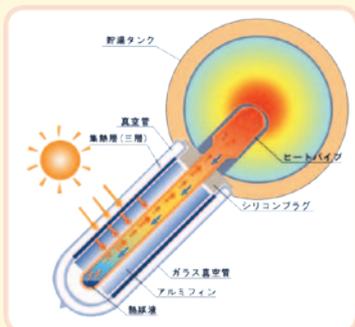
4つのテーマで意見交換会を企画し、各テーマ定員5名で募集をしました。しかし、当日、大雪警報と着雪注意報の発令があり、安全確保のため、中止しました。今号では、3つのテーマで参加予定であった皆さんから、後日いただいた意見を掲載します。4つ目のテーマ「子育て 子育て環境整っている？」については、参加希望者はいませんでした。

環境

ゼロカーボン行動してる？

参加予定 3名

- キャンプ場開設に対してルールづくり（上下水道の整備されていない地域での営業、飲料水の汚染、騒音、ごみの適正処理など）を。
- 地球温暖化対策は遅れている。「環境」とつく課、「ゼロカーボン推進室」などの専門的な部署を。
- エネルギー価格高騰から住民生活をまもるために、村や県からの支援策を（断熱化、自然エネルギーへの転換）活用するなど、方策を考えるべきでは。
- ゼロカーボンの取組みで、環境負荷の少ないローテク（真空管ヒートパイプ）の提案。



その他意見より

- 村は、「お金がない」と言う理由を住民に伝えていない。
- 子ども子育て支援センターは、運営協議会をつくり、村民協働の体制づくりを。
- ホームページが変更になったが、未完成であると感じる。どこを改善したのか説明を。
- ゼロカーボン、SDGs に対する取組みが全く見えない。住民を巻き込んで話し合う機会を。

まちづくり

帰ってきたい村になってる？

参加予定 3名

- 子ども施策について、外遊びの場所、放課後の居場所、村の行事や村政に参加できる機会が不足している。
- 自給できる村づくりについて官民一体的な議論を。
- 使われていない家具や道具の再利用を。
- 行政と村民と一緒に計画作成から始める「村民協働」の推進を。
- 行政職に専門職の採用を。
- 公共交通は村づくりのひとつ、関係課でプロジェクトチームを。

産業振興

後継者は？

参加予定 4名

- 労働環境の整備や家族経営協定を結ぶことで円滑な後継と後継者の確保を。
- 農業の方向性を考える若者会議を。
- 農業の六次産業化に向けてオープンな場で議論を。
- 後継者育成に向けて、農業者を目指して移住してくる若者達への、家、畑、農機具、資金などの補助と拡充を。
- 新農産物の育種、育苗、栽培法の改良改善などへの行政サポートの必要性。

みなさんの
の

声を聴かせてください

「住民に開かれた議会」をめざし、「広聴」の機会づくりに努めます。



伊藤 高明 さん (中新田区)

長い歴史の積み上げ

歳の一区切りとして盆栽を始めて25年近く過ぎました。盆栽とは言っても高級な価値あるものはありません。それでも中には200年近い物もあって、春一番がやってくる頃には植替えなどの手入れをします。一代が20年としますと、私の手元に来た時点で概ね十数人が手掛け、今ここにあると推測しますと、その重さと尊さを感じます。手を入れていると盆栽の声なき声が見えてきます。

これに^{なぞら}えば、原村も長い歴史の積み上げで今の暮らしが成り立っており、とりわけ村議会は村民の生活に直結していますので、これからも諸課題を汲み上げて、原村の未来に繋げていただきたいと思います。



鎌倉 純子 さん (払沢区)

なんとなくいい村

私は原村で生まれ育ちました。一時期進学就職で村を離れていたこともあります。その時から子育てするなら絶対原村に帰りたいという気持ちはあり、今その思いは叶っています。子育てを通じて友人になった人たちの中には村に移住してきた方々が多くいます。そこで言われるのが「小さい頃からこの環境で過ごしてきたなんて羨ましい!」ということ。まさか、原村生まれ原村育ちが私のアドバンテージになる日が来るなんて思ってもいませんでした。

何十年先の話、子供たちが成長し人と出会い、原村で育ったことを自慢できるような、いつまでもそんな場所であってほしいと願います。

編集後記

庭先に目を向けると福寿草は咲き競い、畑では農作業に励む姿が目につく季節になりました。今年は、4月に長野県議会議員選挙、原村議会議員選挙が行われ、次は夏の村長選挙となります。私たちの生活環境はどうか、コロナ禍、物価・燃料・資材の高騰など、今まで経験した事のない厳しい状況が続いています。明けな夜はない、と言いますが、私たち自ら穏やかな生活を取り戻し守っていくためにも今年の選挙は真剣に考え、選択する時だと思えます。そんな時こそ、確かな情報を皆さんに届けられる議会だよりになればと思っています。

(森山記)

議会広報・広聴特別委員会

議会の傍聴にお出かけください

次の定例会は

5月26日(金)

開会予定です

- ・役場2階総務課前で受付後、傍聴席にお越しください。
- ・会期中は委員会の傍聴もできます。

[問い合わせ]

議会事務局 ☎0266-79-7951

委員	委員	委員	副委員長	委員長
平出	松下	森山	百瀬	宮坂
敏廣	浩史	岩光	嘉徳	早苗